

1. 単元名 「地元(奈良)を学ぶ」

2. 単元の目標

- ・歴史的建造物や地域の伝統文化についての知識を持ち、それらをわかりやすくまとめて発表することができる。(知識・技能)
- ・他者の意見と自分自身の意見の共通点・相違点を比較する中で新しい価値観を導き出し、持続可能な社会の形成のために自身がどうすべきかを、具体的に考えることができる。(思考・判断・表現)
- ・身近な社会問題に対して、自分ができるとは何かを模索し、自分なりの視点で問題解決に向けて行動しようとする。(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1)教材観

本校1学年の総合的な学習の時間では、2学期の学習テーマを「地元(奈良)を学ぶ」とした。これは2学期に1・2年生合同で行う奈良めぐり(フィールドワーク)や2学年5月に実施予定の臨海実習(鳥羽方面)での学びをより深いものにさせるために、地元(奈良)の良いところや改善すべきところに目を向けさせることを目的としている。

生徒が主に生活を行う奈良県には多くの歴史的建造物や伝統工芸品がある。その一つに奈良筆や奈良墨があるが、それらは非常に高価なものが多く、海外製の製品が安価に手に入る現代で、簡単に手をのばせるものではなくなっている。また、日々の生活の中で筆や墨を使用する機会がない現代において、そのもの自体が日常的に使用するものではなく、需要自体も減少している。よって、歴史的・文化的価値のあるものでありながら、その価値に気づかずに生活していたり、そのもの自体を知らないまま生活したりしているのが現状である。また、材料となる獣毛などの入手の難化や職人の高齢化・後継者不足などもあり、伝統自体を後生へと受け継いでいくことが危機的な状態となっている。

奈良筆については、本校1学年で使用している道徳の教科書でも教材として扱われている。主人公である史峰の仕事場に掲げられた「一を以って之を貫く」という書から、主人公が何を思っていたのかを想像させ、最終的に「伝統や文化を継承していくために必要なことはなにか」を生徒自身に考えさせることで、ねらいにせまる教材となっている。作中にある「史峰の筆は、一本一本に心を込めるために、収入は少なく、家計はいつも火の車だった。」という文章や、「職人は金もうけに走りすぎたらあきません。仕事で勝負するのです。」という台詞が印象的な読み物教材である。

(2)生徒観

今年度より、生徒は1人1台 chromebook を所持しており、様々な教科で活用している。総合的な学習の時間でも、1学期に googleclassroom の使い方や、google スライドの利用練習、マインドマップの作成など、数時間かけて行っており、ほとんどの生徒が自在に扱うことができるようになっている。

1学年の生徒(3学級87名)に対し、「奈良筆を知っていますか?」と事前アンケートを行ったところ、知っていると答えた生徒は42.5%(37名)で、残りの57.5%(50名)は知らないと答えた。ちなみに、87名のうち12名が京都

府在住の生徒で、そのうち3名の生徒が知っていると答えていた。よって、奈良県在住の生徒であっても、半数以上の生徒が奈良筆の存在を知らないことが分かる。また、同じアンケート内で「伝統文化を継承することは必要か？」と質問したところ、97.7%(85名)の生徒が必要であると答えた。「失われそうな伝統や文化を将来に継承していくために、あなたがしていること(していたこと)はあるか？」という質問に対しては、35.6%(31名)の生徒があると答え、その大半が「小学校で学んだ、体験した」や「書道を習っている」であり、具体的な取り組みとは言えなかった。また、ないと答えた64.3%(56名)は「機会がなかった」「何をしたらいいかわからない」「興味がなかった」と回答していた。これらのことから、生徒にとって「伝統文化は大切だし、後生に残した方がいいもの」ではあるが、「自分には関係がないもの」であることが推測できる。地元が大切にしてきた伝統文化であっても、他人事であり、自分自身の生活とはかけ離れた存在として捉えている状態である。

(3)指導観

よって指導にあたっては、道徳と総合的な学習の時間を使って複合的に進めていく。道徳では、「多くの人が伝統や文化を将来に継承していくことは必要だと考えているのに、その担い手が減ってしまっているのはなぜか?」「あなたは後継者になるか?」という問いを投げかけ、理想(伝統は残した方がいい)と現実(自分は継がない)の中で生徒に葛藤させる。そして、他人事として捉えていたからこそ、簡単に「残した方がいい」と言ってしまう自分自身に気づかせる。

次に、総合的な学習の時間の取り組みで1・2年生合同奈良めぐり(フィールドワーク)を行い、ホンモノ(ものや人)に触れ、体験することで地元のもつ良さや課題を体感させる。この取り組みは、生徒が自分の興味関心に沿って参加コースを選択するため、より学習効果は高いと考える。また、実際に職人の指導の下、奈良墨について学び、実際ににぎり墨の作成を行う。その中で、職人が直面している多くの問題について直接話しを聞く機会を設けるとともに、その問題についてどのように向き合っているのか、試行錯誤しているのかを知る機会を設ける。また、生徒の素朴な疑問・質問を職人に投げかけられる時間もできる限り設定し、「ただの伝統工芸品」「自分の知らない世界の話」から「〇〇さんがつくっている奈良墨」という生徒の意識の変容へとつなげる。このことから、いかに切実な問題が身近なところで生じているか、いつ無くなってもおかしくない状態であるか、問題と向き合っている人はどれだけ必死なのかを生徒に実感させる。

最後に、自分自身で一連の学びをふり返り、まとめさせる中で、最初に葛藤した内容と再度向き合わせ、自分なりの落としどころを見つけさせる。そうすることで、生徒の行動の変容につなげたいと考える。

(4)ESDとの関連性

○本学習で働かせるESDの視点(見方・考え方)

- ・相互性…奈良筆は我々が生まれるはるか昔から継承された伝統や文化であるが、文明の発達による生活スタイルの変化や大量生産による安価な製品の流通とともに、その需要が減少している。また、職人の高齢化や後継者不足も重なり、生産者側にも大きな課題がある。課題の解決には双方の問題解決が不可欠である。
- ・有限性…現代で生徒は、書写の授業や美術の授業以外で筆に親しむ機会が無く、安価なものを使い捨てるのが当たり前になっている。また、1つのものを大切に扱おうとする意識も乏しい。
- ・公平性…職人は「金儲けに走りすぎはいけない」という価値観から、収入が少なくても昔ながらの方法にこだわり、後継者のことを考えられていない面がある。職人(自分)は貧しくてもよいという美学は、時に称賛されるが、文化を持続という観点から見れば、決して素晴らしい価値観とは言えないのではないか。

○本学習で育てたいESDの資質・能力

- ・批判的に考える力(クリティカル・シンキング)

今ある価値観を維持することが、伝統や文化を持続可能なものにつながるかを自問し、自身の価値観を見つめ直す。

・多面的、総合的に考える力(システムズ・シンキング)

さまざまな人やものの視点に立ち、未知の課題や答えのない課題に対して新しい発想や行動に移すことができる。

・つながりを尊重する態度

伝統的な文化や技術を後生に継承していくために、1人1人が自分なりの視点をもって行動に移すことができる。

○本学習で変容を促すESDの価値観

・世代間、世代内の公正

昔から継承されてきた伝統や文化を、より良い形で未来へ残していくことが大切である。

・文化を尊重する

文化は個人のアイデンティティ形成において重要なものである。

・幸福感に敏感になる

大量生産、大量消費、使い捨ての社会では「本当の豊かさ」を感じることはできない。

○達成が期待されるSDGs

8:経済の成長と雇用、12:生産と消費

○道徳的観点(主題、内容項目、ねらい)

主 題 名:伝統を守る

内容項目:A-(5)…心理の探究、創造

C-(16)…郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度

C-(17)…我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度

ね ら い:日本人としての自覚をもって我が国の優れた文化を継承し、その相応に貢献しようとする態度を育てる。

教 科 書:中学道徳 あすを生きる1『奈良筆に生きる(P.136～P.139)』(日本文教出版)

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 歴史的建造物や地域の伝統文化についての知識を身につけている。 ② 思考ツール、発表ツールを活用して、自分の考えや意見を端的でわかりやすいものにまとめることができる。	① 自分の考えを具体的な理由を含めて伝えることができる。 ② 他者の意見を傾聴し、自分自身との共通点・相違点を見つけることができる。 ③ 自分の考えや意見を思考ツールや発表ツール、身振り手振りなどで表現し、わかりやすく他者に伝えることができる。	① 自分の考えを積極的に発言することができる。 ② 多角的な視点で問題をとらえ、解決方法を導き出そうと励んでいる。 ③ 難解な問題に対して、自分ができることは何かを模索し、自分なりの視点で解決に向けて行動しようとしている。

5. 展開の概要(全11時間+校外学習) ※1～4(2学期)、5～6(3学期)に実施

次	主な学習活動	学習への支援(・)	評価(△) 備考(・)
1	○奈良県の特産品や伝統工芸品で知っているものを出し合う。 ○アンケートを記入する。	・挙手させて、アンケートの結果を簡単に共有す	△ア①

1 時 間	<p>○教科書を読む。(道徳)</p> <p>○動画を見て、実際の活動を知る。</p> <p>動画「奈良伝統工芸－毛筆－」※前半の15分のみ流す https://www.youtube.com/watch?v=8iXClXbCuzU</p>	<p>る。</p> <p>・範読する。</p>	
<p>「収入は少なく、家計はいつも火の車だった」のに史峰は筆作りを探究し、つくり続けたのだろうか？</p>			
<p>○個人で思ったことを自由に発言させる。</p> <p><補助発問></p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの人が「伝統や文化を将来に継承していくことは必要だ」と考えているのに、その担い手が減ってしまっているのはなぜか？ ・あなたは後継者になりますか？理由は？ 		<p>・補助発問をもとに生徒同士で対話させ、儲けに走ってはいけないという職人の美学が、現状をつくり出している可能性に気付かせる。</p>	<p>△イ① △イ② △ウ①</p>
<p>伝統や文化を継承していくために、必要なことは何だろうか？</p>			
<p>○グループで話し合い、意見を発表する。</p> <p><補助発問></p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜこの課題解決は簡単ではないのだろうか？ ・奈良筆以外にも似たようなことが言えるものはないか？ 		<p>・できるだけ具体的な理由もつけて発言させる。</p>	<p>△イ② △ウ②</p>
2 1 日	<p>地域の人は実際にどのような問題意識を持ち、悩み、実際に取り組んでいるのだろうか？</p>		
<p>○1・2年生合同奈良めぐり(フィールドワーク)を通して、地元の歴史や地元が抱える課題と向きあう。(総合)</p>		<p>・ワークシートに学んだことを細かく記録させておく。</p>	<p>△ア① △ウ②</p>
			
3 2 時 間	<p>○オンライン講演会とにぎり墨体験を通して、奈良の伝統文化に直接ふれる。(総合)</p> <p>※錦光園第7代目墨匠：長野睦さんにオンラインで講演会およびにぎり墨体験の指導を依頼</p> <p>○活動をふり返り、ワークシートに記入する。</p>	<p>・講演中はメモを取らせ、些細な疑問点でも質問できるように準備させておく。</p>	<p>△ア① △ウ② △ウ③</p>
			

4	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 地元(地域)の一員として、また将来の担い手の一人として、課題と向き合おう。 </div>		
4 時間	<p>○これまでの学びをふり返り、まとめる。(総合)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・google スライドを活用し、2学期の総合的な学習の時間の学びを整理する。 ・奈良めぐりを中心に、自分自身でテーマを設定してまとめる。 <div style="border: 1px dashed blue; padding: 5px;"> <p><スライド必ず入れる内容> ※多少の変更は可、順番も自由</p> <ol style="list-style-type: none"> ① SDGsの何番に関連した内容か(複数個でも OK) ② なぜ①に注目したのか、その理由は? ③ ②を考えるきっかけとなった2学期の総合的な学習の時間の活動(全てに触れなくても OK)と、具体的な内容 ④ 2学期の活動を通して、あなたが考えた地元奈良の魅力・よいところなど ⑤ 2学期の活動を通して、あなたが考えた地元奈良の改善すべきところ・悪いところ・危機的なところなど ⑥ ④、⑤をふまえて、自分が取り上げたテーマ、内容、ことがらを持続可能なものにしていくために、何が必要か。手立て、行動とはどんなものか?具体的に提案する。 ⑦ 2学期の学びを通して、あなたが変化したこと(考え方、行動面など)は?また、その理由は? </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・体調不良で奈良めぐりに参加できていない生徒は、にぎり墨体験などに焦点を当ててまとめさせる。 ・スライド作成が苦手な生徒には、発表原稿を先に書かせるなどのアドバイスをし、できる限り本人が言いたいことが明確化させられるように手助けをしていく。 	<p>△ア① △ア② △イ③ △ウ③</p>
5 3 時間	<p>○学びを学級で発表し、他者と共有する。(総合)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人で作成した google スライドをもとに、学級発表会を行う。 ・発表時間はひとり4分とする。 ・他者の発表内容や発表を聞いた感想をワークシートに記入し、自身の学びと比較する。 <p>※この内容をもとに、3学期に学年文集を作成する。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者にどうすれば伝わるかを意識して発表するように指示する。 	<p>△イ① △イ② △イ③ △ウ① △ウ② △ウ③</p>
6 1 時間	<p>○自分でつくった墨を利用する。(国語科・書道)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で作成した墨を使用して書道の学習を行う。 ・普段使用している墨汁との違いを実感し、固形墨のもつ価値に触れる。 ・授業後、事後アンケートに答える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・墨のすり方など、ICT 機器を使用して視覚的に学ばせる。 ・国語科の授業として実施し、生徒が正しい技能を身につけられるようにする。 	

6. 成果と課題、今後の展望

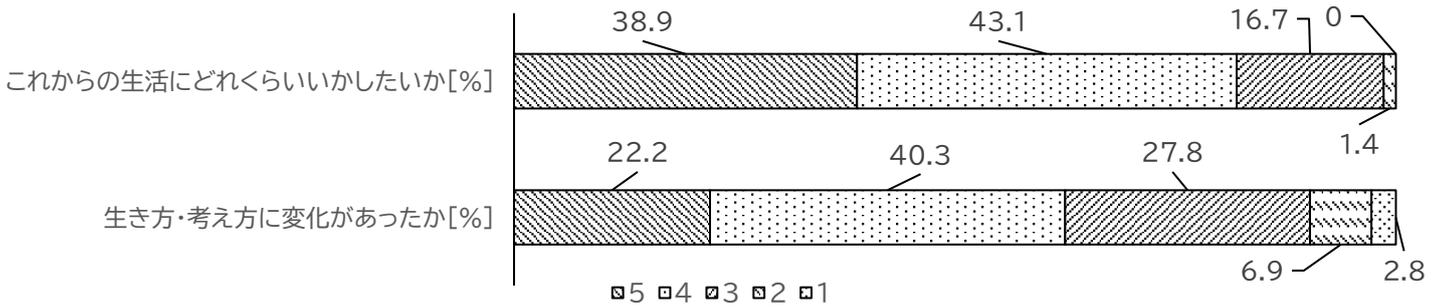


図1 事後アンケートの結果(N=72)

1次の道徳の授業後のふり返りで生徒は、「他のことで人間て他人だよな…と思うことはあったけど、文化的なもので感じたのは初めてだった。どうにかしないといけないのは分かっているけど、行動に移していないのが今の日本。令和になっているし、そろそろこの状況を変えていかないといけないんだろうけど、結局自分は何もできないし行動に移そうともしていない。」「伝統や文化を継承していくことが必要だけど、実際問題先生や有名人が私たちがみたい子ども達に情報を発信しても、結局「私が継ぐ」という人たちは出てこないから、本当にどうすればいいか分からなくなった。」「継承するということが、なぜか分からないけれど難しい…興味を持たないと無理とか、食べていけないとか…問題が多すぎ。」と記述しており、非常に葛藤している様子が見えられた。

3次終了時に1学年の生徒(3学級72名)に奈良めぐりの事後アンケートを行った。(図1)質問は「あなたは奈良めぐりで学んだことを、これからの生活にどれくらいいかしていきたいと考えますか」、「奈良めぐりの体験や学びを経て、あなたのこれまでの生き方・考え方に変化はありましたか」の2つで、それぞれに5～1の5段階で答えさせた。("いかしたい"、"変化があった"が「5」)その結果、前者の質問に対して「5」または「4」と答えた生徒が約82%となり、多くの生徒がこれからの生活にいかしていきたいと考えていることが分かった。事後アンケートに生徒が記述した感想の一部を以下に示す。

コース	奈良めぐり・生徒の感想(一部抜粋)
A	・菊屋は和菓子屋だけど昔からずっとやっていて、つぶれそうなきもあったりして商品を新しく作ったりしていたけれど、見た目より味を昔から大事にしている、伝統的な文化を変えず大切にしているということが分かった。
B	・奈良にある有名な建物とかは観光をしている人に向けてのものというくらいにしか受け止めていなかったけれど、その建物を通じて自分達も支えられているんだと気づいた。 ・水産業は海だけだと思っていたけど、金魚も水産業だと知ったので、水産業への考え方が変わった。
C	・学校のテニスコートにナンキンハゼのような木があった。だから芽が出てきたら抜こうと考えている。 ・これまでは奈良公園を歩いていても、「ああ草があるなあ」ぐらいであったが、今は「あこの草は○○だ！ 駆除しよう！」など、とても視点が変わった。
D	・今までは身近に歴史的な建造物があってもその重要性はよく分かってはいなかった。けれど、今回の奈良めぐりを通して、般若寺などのお寺、旧細田家住宅などの建物からは昔生きていた人々の暮らしや思いがたくさん詰まっていた、そのようなことは受け継いでいくことで現代にも活かすことができると思った。
E	・鹿がいるのは歴史であって、それが観光になっているという考えだったけど、観光のために鹿がいて問題には目をつむっているということを知って、「共生」への考え方が人と自然が半分ずつではなく、自然を重視した方が良く思うようになった。
F	・大仏鉄道がなぜ9年でとまってしまったかということを知り、これからできるリニア新幹線のことにつなげることができた。大仏鉄道があったことで、次どこを通せばより持続可能な社会につなげられるか

	を深く考えることができた。
G	・外国人を見ると、「英語で話さない」「丁寧にしないと」と思いがちだけれど、「喜んでいただく」という気持ちは誰に対してでも忘れてはいけないと教えてもらった。

一方で、生き方・考え方に変化があったと考えている生徒(「5」または「4」と答えた生徒)は約62%にとどまった。「3」や「2」と答えた生徒の中にはアンケートに「考えが変わったと言うよりも、新しいことを知ったというのが大きかった」「知識が入っただけでまだ行動には移せていない。」と記述しており、道徳の時点で抱いていた葛藤から抜け出せず、奈良めぐりを終えた直後の段階では意識の変容や行動の変容にはまだつながっていないことが見受けられた。

3次のオンライン講演会とにぎり墨体験後のふり返りでは、「木型を彫る人が90代のおじいさん1人だけという話をきいて、本当に驚いた。伝統を守るには、様々な技術が必要だけれど、それをやりたいと思う人がもういないかもしれないと言うことは本当に解決しなければいけないことだと思った。」「墨屋が全国に9軒しかないことにとっても驚いた。全国で墨の需要が下がっているのだなと思った。」などの記述があり、3次までの活動を通して(4)に上げた ESD の視点で考えられている生徒が多く確認できた。また、中には「唯一無二の製品を作る楽しさとすばらしさを、にぎり墨体験を通して感じた。」「やりがいがあってすごく興味のある仕事だった。」「書道をするとき何も考えないで使っていたので、これからは感謝しながら使いたい。」といった、生徒の行動の変容につながる記述も見られた。

生徒は、3学期に2学期の総合的な学習の時間での学びを自分なりにまとめて学級内で発表した。まとめの作業をする中で、生徒は他者に伝えるために学んだ内容を自身で噛み砕くとともに、他者の発表(学び)に触れることで、改めて自分なりの「落とし所」を見つけていくことになったと考える。

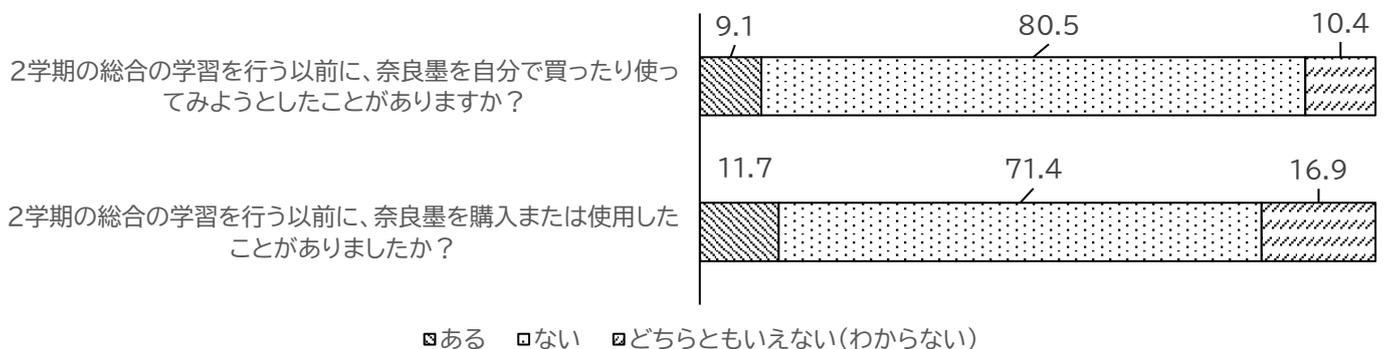


図2 書写・事後アンケートの結果①(N=77)

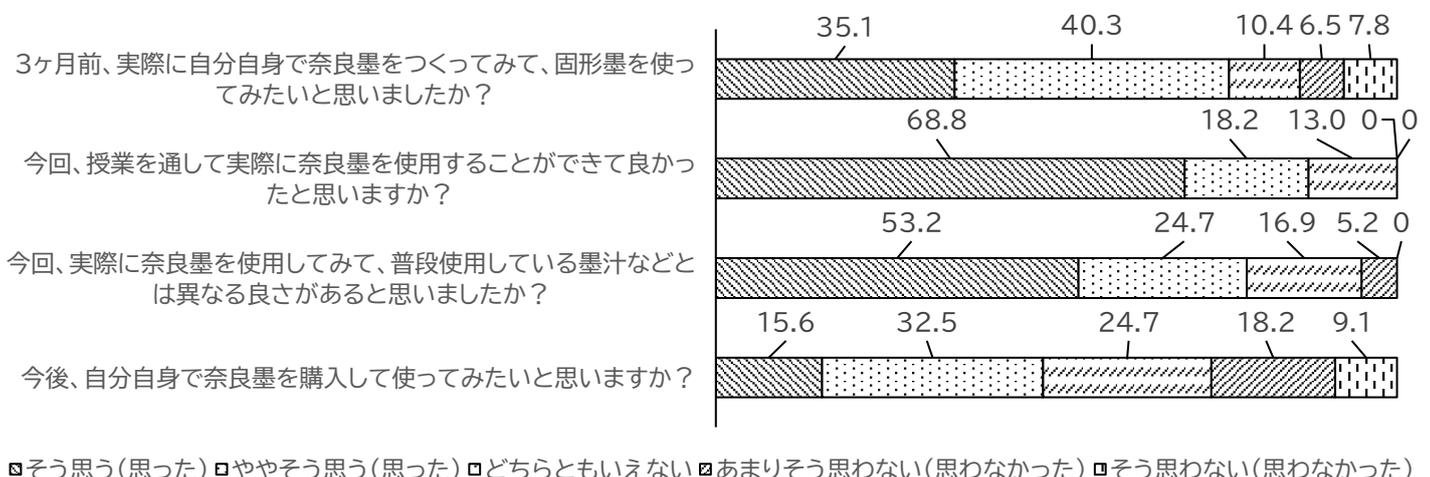


図3 書写・事後アンケートの結果②(N=77)

また3学期に国語科と連携し、書写の授業で生徒が自分自身で作成した墨を使う機会を設けた。図2、図3に授業後に実施した事後アンケートの結果を示す。図2、図3より80%近くの生徒が本単元の取り組み以前は奈良墨に興味をもっていなかったが、本単元の取り組みを通して48%の生徒が自分で購入して使ってみたいと考えるようになったことが分かった。また図3において、他の質問項目に対しても肯定的な回答をしている生徒が多く、実際に使用する経験をしたことが価値観の変容につながり、具体的な行動のイメージ化につながっていると考えられる。

今回の取り組みで作成した墨は、今後本校の美術科の授業でも活用予定ある。墨の材料である膠についても、2学年理科の生物単元で題材として扱えないか模索中である。今後も教科を横断した形での授業を進めていくことで、道徳のねらいの達成や生徒自身の ESD の価値観の育成・具体的な行動変容につなげていける教材であると考えている。書写の授業後に生徒が記入した事後アンケートの一部を以下に示す。

質問	今回、実際に奈良墨を使用したことで、3ヶ月前(奈良墨をつくったとき)の自分の行動や考え方と比べて、変化したことはありますか？小さなことでも良いので何かあれば書いてください。
	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良墨と普通の墨とで何がそんなに違うのかわからなかったけど実際に使って試してみることによって奈良墨と普通の墨との違いもわかった気がするし奈良墨は大切にしていけないと思いました。 ・改めて、墨の匂いは癒やされるなどと思いました。墨を使って習字をする機会はとても少ないけれど、香りを楽しむために買ってほしいなどと思いました。 ・奈良墨を作りたい、とは思わなかったけど、せっかく自分で作った奈良墨を最後まで使い切りたい、と思った。使い切るまでには、もっと文字がうまくなりたい。 ・自分のなかでは今後も奈良墨や固形墨にも触れていこうと思えました。 ・墨の香りによる精神的な落ち着きを得られるということが実際に分かって、また、自分でも墨を買ってみようかなと思いました。 ・奈良墨を作ったときは、こんなもの使う機会ないし興味ないと思っていたけど、奈良墨を体験して墨の中にも良い品質のものもあるんだとわかり、興味があります。 ・作る時より、使うときのほうがより墨を身近に感じられたと思う。先生が、墨によって色や香料が少しずつ違うといていたので、他のものも使ってみてみたいと思った。 ・3ヶ月前は奈良墨を作っただけで実際に使用していなかったため、「奈良墨」がどんなものなのか実際に使ってみて、より奈良墨の良さを実感できた。また、今の時代は墨と筆を使い文字を書き試みる機会はずごく少ないが、そんな中でも地元・奈良の奈良墨を使ってみてみたいと思うようになった。 ・今の時代には、墨汁が広く普及したことによって、すぐに書写の準備をする事が可能であるが、少し前までは、墨を磨ることでしか書道の準備ができなかったため、「墨」は非常に不便なものだと考えていた。しかし、市販の墨汁では表現できないような「自分好み」の濃さを表現できるというすばらしさがあるのだなと感心しました。 ・実際今まで固形の墨を使っていたのですが、それがもしかしたら奈良産のものだと思うと、親しみがわきました。 ・高い墨を使う必要はあるのかなと思っていたが、使うだけの価値はあるんだと思うようになった。 ・地元の工芸品や物を使うことで、地産地消にもなり、自分も地元のことを知れて、なおかつ丁寧に作られたものを使うことができるなんて一石三鳥だなと思いました。

今回、錦光園長野睦さんによるオンライン講演会とにぎり墨体験は、奈良商工会議所青年部 YEG の協力が得られたため実施することができた。奈良商工会議所青年部には、1・2年生合同奈良めぐりでも度々ご協力いただいている。地域学習や地域の人材活用には、外部機関との連携が不可欠であると改めて感じた。

現在の学年終了時に目指す姿

身近な伝統文化を持続可能なものにするために自身がどうすべきかを具体的に考え、行動に移すことができる。

道徳

「奈良筆に生きる」
(日本文教出版)

総合的な学習の時間

1・2年生合同
奈良めぐり

総合的な学習の時間

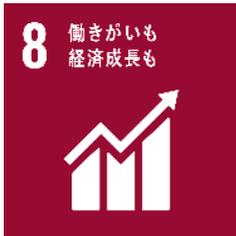
奈良墨オンライン講演会
にぎり墨体験

総合的な学習の時間

『地元を学ぶ』
～学級発表会～

中学1年

〇達成が期待されるSDGs



道徳「奈良筆に生きる」(日本文教出版)

主人公である史峰の仕事場に掲げられた「一を以って之を貫く」という書から、主人公が何を思っていたのかを想像させ、最終的に「伝統や文化を継承していくために必要なことはなにか」を生徒自身に考えさせることでねらいにせまる教材。理想(伝統は残した方がいい)と現実(自分は継がない)の中で生徒に葛藤させる。そして、他人事として捉えていたからこそ、簡単に「残した方がいい」と言ってしまう自分自身に気づかせる。

奈良筆は大切な文化、無くしてはいけぬ。それはわかるけど...

自分1人で解決できる規模の問題じゃないから、何が出来るか見当もつかないし、意味がなさそう

自分ができること、続けられることは何だろう

総合的な学習の時間「奈良墨オンライン講演会・にぎり墨体験」

実際に職人の指導の下、奈良墨について学び、実際ににぎり墨の作成を行う。職人が直面している多くの問題について直接話しを聞く機会を設けるとともに、その問題についてどのように向き合っているのか、試行錯誤しているのかを知る機会を設ける。いかに切実な問題が身近なところで生じているか、いつ無くなってもおかしくない状態であるか、問題と向き合っている人はどれだけ必死なのかを生徒に実感させる。

きれいな事を言ってもらえない切実な状態だ

この前の〇〇さんが関わっている商品だから使ってみよう

こんな人が課題と向き合い行動しているんだな...

総合的な学習の時間「1・2年生合同奈良めぐり」

ホンモノ(ものや人)に触れ、体験することで地元のもつ良さや課題を体感させる。生徒が設定された7コースから自分の興味関心に沿って参加コースを選択するため、より学習効果は高い。

総合的な学習の時間「地元を学ぶ～学級発表会～」

自分自身で一連の学びをふり返し、まとめさせる中で、最初に葛藤した内容と再度向き合わせ、自分なりの落としどころを見つけさせる。

小さなことから始めてみよう

後継者不足や消費の減少だけが問題点ではない

多角的に見る別の課題を知る

中学1年生

〇主に養いたい ESD の資質・能力

批判的に考える力(クリティカル・シンキング)

今ある価値観を維持することが、伝統や文化を持続可能なものにするにつなげるかを自問し、自身の価値観を見つめ直す。

多面的、総合的に考える力(システムズ・シンキング)

さまざまな人やものの視点に立ち、未知の課題や答えのない課題に対して新しい発想や行動に移すことができる。

つながりを尊重する態度

伝統的な文化や技術を後生に継承していくために、1人1人が自分なりの視点をもって行動に移すことができる。

〇主に育てたい ESD の価値観

世代間、世代内の公正

昔から継承されてきた伝統や文化を、より良い形で未来へ残していくことが大切である。

文化を尊重する

文化は個人のアイデンティティ形成において重要なものである。

幸福感に敏感になる

大量生産、大量消費、使い捨ての社会では「本当の豊かさ」を感じることはできない。

美術科

2年「水墨画・篆刻」
実際に墨を利用する。

国語科

1年「書写」
実際に墨を利用する。

理科

2年・生命「動物の体のつくりとはたらき」
3年・環境「自然界のつり合い」「生態系における生物の数量的関係」
膠について学ぶ。筆や墨の材料となる生物の数量的変化と問題点を学ぶ。